

えんぼとたんぼの始発駅 里山ビオトープ二俣瀬	<b>会 報 第 3 6 号</b>	2004年7月23日 里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 編集責任者：西原 一誠
---------------------------	--------------------	--

### 1. 活動報告（事務局 記）

- 6月27日（日） 地球温暖化対策ネットワーク協議会総会 今井会長出席
- 6月28日（月） 田んぼ除草用ぬか撒布 原田副会長
- 6月29日（火） 宇部地域環境パートナーシップ会議 今井会長出席
- 7月4日（日） 本日の作業は二俣瀬校区の行事が重なりまして 13名の参加でしたが、湿地帯のサギ草保護柵製作取り付け、須賀河内川の葦刈り取り、清瀬峡の草刈りでした。
- 7月5日（付） 中国電力(株)宇部電力所柴田課長ほか、午前22名午後20名の奉仕作業で須賀河内川全般の葦刈りが完了しました。中電の皆様には厚くお礼を申し上げます。
- 7月17日（土） タガメ生息調査、プレハブ小屋西原会員方より運搬整理、田んぼの草取、そば田荒お越し
- 7月17日（土） 午後の里山自然観察隊には「魚、水生昆虫」で一番面白い隊の行事でしたので19名の隊員と16名の保護者が集結し、須賀河内川上から下まで又池全般にわたって観察していました。

### 2. 今後の予定（事務局 記）

見学者  
8月5日 宇部市水辺の教室 100名程度見学

#### 行事

8月1日 第一日曜日看板、柵の補修 取り付け 田んぼの二回目除草  
8月21日 第三土曜日 そば播種、午後の「里山自然観察隊」は厚東川にて魚と水生昆虫観察

### 3. ビオトープ関連（ビオトープ周辺の植物） 美濃和 信孝

#### キキョウ科の植物

キキョウはご存じ秋の七草のひとつ、山野の草地に生える多年生草本で、7～8月に青紫色の花をつけます。キキョウの葉は本来互生ではあるのですが、対生やほとんど輪生に見えることもあるため、花のついていないものはなかなか同定するのが難しい種類です。日当たりの良い草原に生える草ですが、昔と違って定期的に草刈りがなされる茅場がほとんどなくなった現在では、全国的に見ても自生地は少なくなりつつあります。ビオトープではこの季節、須賀河内川の上流でちらほらと花が咲いているのを見ることができます。キキョウには太い根茎があり、この根茎を乾燥した物が咳や気管支炎などに効く漢方薬の桔梗根です。

ミゾカクシは、ビオトープの水車の回りでたくさん花を付けている小さい匍匐性の多年草です。水田の溝など、適湿な環境に生える植物で、その名は溝を隠すように広がることからつきました。別名のアゼムシロは畦に敷く筵という意味です。

学名は、ロベリア・シネンシス（中国のロベリア）といって、園芸種のロベリアと同じ属のキキョウ科の草です。同じキキョウ科とはいっても、キキョウとは似ても似つかぬ感じの草で、花のかたちも一風変わっています。キキョウの花の上半分を削ぎとって、残りの三つの花弁を五つに裂いたような造りをしています。ですから、おしべもめしべもむき出しになっています。小さい花ですが、一度ルーペでよく観察してみてください。自然の造化の妙に打たれると思います。



キキョウ (キキョウ科)



ミゾカクシ (キキョウ科)

#### 4. ピオトープ関連 (会員の声)

##### 初夏のピオト - プ (原田 満洲夫 記)

梅雨も明け暑い日が続きます。7月20日車地日吉神社の中祭“御みゆき”行事がありました。これは田んぼの虫が稲の生育を妨げるのを防ぐ虫除け神事です。この神事は山口県のみに残っていてそれもこの旧厚狭郡地域が盛んだそうです。先頭に清め水(林弘会員)お払い太鼓(原田武、原田満会員)御幣(吉富匡会員)払い刀(原田賢会員)槍(小林会員、永山会員)と総勢13名の半分はピオトープの会員でさぞピオトープのもち米の収穫も良くなることと思います。

その昔農薬でパラチオンという使い方によっては人も死ぬることもあるという劇薬よりも“おみゆき”行事の方が虫除けには効果があったとか。まあ36度と暑い中、昔からの神事とはいえ伝統を守る皆様のご苦労に感謝いたします。

今回は渡辺昭和会員にリレーします。宜しく

#### 5. 来訪者の声 (東屋のノートより一部抜粋)

6月28日 除草剤として米ぬかを約55kgを撒いたその効果は?(基本は反当り150kgだそうです。小さな雑草やひえが多く生えている。後日皆さんに草取りをお願いするかも?その際は宜しくお願いいたします。

7月17日第一回目の人力草取りを行って第二回目も次回参集日に予定しています。

#### 6. 会よりの連絡事項

##### 1) そばの収穫について

夏そばが収穫できるのではないかと予定を皆様に申し上げていましたが、まったく実が薄く収穫に出来る様なものではありませんでしたのであきらめて鋤こみました。やはりそれなりの季節に播種しそれなりの時期に収穫するのが自然で一番の収穫量でしょうね。

##### 2) 会員消息

###### 新入会員

お名前 寺 森 正 行さん

住 所 小野田市旦西

お電話 83 - 4251

## 7. 編集後記

最近の会員の参加で感じていることは、設立当初の何かを作り上げるという情熱はなく、現状を維持していくだけのマンネリ化した作業だけで、参加者も少なく20名程度のいつも決まったメンバーが集まっているということです。何となく寂しくもあり、気力も盛り上がりません。イベント（田植え等）には結構な人数が集まるのですが、あの設立当時の熱気溢れる情熱を持った人たちは何処に行ったのでしょうか。違った場所で別の目的のために頑張っておられるのでしょうか。事務局長も色々と知恵を絞って、連絡もされていますが、参加者は増えません。1年に1回も来ないなら、ボランティアなのだから、止めて欲しいとも言われますが、やはり共に汗を流した仲間でありますので、時間ができたらまた参加してもらって、「元気でしたか」と声を掛け合って、ピオトープの維持のために尽くしていければ、それで十分だと思います。美濃和さんの言われるエコアップも新しい考えだと思いますので、皆さんで我がピオトープの発展のためにも、僅かな時間を作って頂いて是非参加して欲しいと願っています。

（西原 一誠 記）